

2021/10/23

(オマケの英語教室 happy) 書庫版



高校の夏休みに、冬休みと春休みにしたアルバイトで貯めたお金を使って 1 ヶ月ほど北海道のユースホステル寝泊まり旅をしました。

その折、宿泊したユースホステルに同じ日に止まっていた見知らぬ大学生の人から

「幸せというのは女の概念だ。男にはない」

と言われて驚いた事がありました。

どういった経緯でその様なご託宣を聞く羽目になったのかはすっかり忘れてしまいましたが、最近仕事柄外国の人が会話の中でよく happy という言葉を使うのに接して突然思い出しました。

それで外国の人が happy を使う際、冒頭の大学生さんがいったご託宣が当て嵌まっているのかどうか？即ち女性だけが使っているかどうかを観察してみました。特に女性だけが口にしていないとは限りませんでした。

男性も女性も使っていました。しかも会話の中では頻繁に出てきます。

一方我が国の場合は会話の中では滅多に日本語の「しあわせ」とか「幸福」という文言は耳にしませんでした。反対に

「しあわせになりたい」

とか

「幸せな結婚をしたい」

とか何やら告白ベースの重みで呟かれているケースがあるのは見て取れました。

そしてそう呟くのは決まって女性。男性が

「しあわせになりたい」

とか

「幸せな暮らしをしたい」

とか云うのを聞いた事はまずありませんでした。

そういう意味では冒頭の大学生さんが言った事は少なくとも「我が国に於いて」は成り立ちそうです。

一方、外国人さんを観察してみると女性も男性も happy という言葉を使うに際して「告白ベースの重み」といった特別なニュアンスは何処にも感じられず、

I'm happy での happy

は云ってみれば

I feel so good

つまり「気分いいよ」とか

Yes, I have good condition.

「うん、調子いいよ」

I'm on the smiling mode

「ニコニコモードよ」

位のレベルにしか感じられませんでした。

それは外国人さんが

Oh, great!!

と言うのを我が国国民は

「おお、偉大だ」

と言った（言われた）と思うのに対して、当の外国人さんは

「あらまっ、スゴイね！！」

位のニュアンスでしか使っていないのと同じレベルの話の様な気がします。

我々の基準からすれば彼らは「明らかに大袈裟な表現」を使う様です。

反対に「大して深い意味や重みはない」のでしょうか。

話を元に戻しますが、それにしても我が国では女性、なかんずく高等教育を受けた女性程本題目の happy（しあわせ、幸せ、幸福）に殊の外、厳しい条件を付けている様な気がします。

即ちその方々の云う処の

「しあわせになりたい」が指す「しあわせ」とは

「生涯お金の苦勞をせず、常に特別扱いされる事」それが「自分にもたらされて然るべきしあわせの必須条件」であると。

ここ迄「しあわせ」の意味する処が重たいと我が国での会話の中に外国人さん達ほど happy（しあわせ、幸せ、幸福）という言葉が出ず、告白ベースでしか出てこないのも「深く頷ける気がする」次第で御座います。

The weight of using the word “happy” is quite different from them to us in each conversation.

“Not anytime, but sometime a little bit happy” it's my happiness, I think.

注)

写真は半被 (ハッピ=happi)